

風水害対策について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
 ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際も皆さんで協力しましょう。

大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。

大雨警報

大雨によって**重大な災害**が起こるおそれがあると予測される場合。

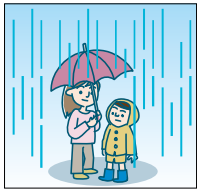
大雨特別警報

数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、**重大な災害が起こるおそれ**が著しく大きい状況と予想される場合。

雨の強さと降り方

(1時間雨量：mm)

10～20の雨



地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。

20～30の雨



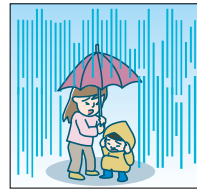
土砂降りの雨のときは、傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。テレビやラジオなどで今後の様子を注意し、長引きそうなら避難の心構えをしましょう。

30～50の雨



バケツをひっくり返したような激しい雨のときは、山崩れやがけ崩れが起こりやすくなります。避難の準備をしましょう。

50～80の雨



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

80以上の雨



息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

風の強さと吹き方

(平均風速：m / 秒)

10以上～15未満



風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。

15以上～20未満



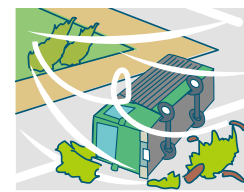
風に向かってあるけない。転倒する人もいる。

20以上～25未満



しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

25以上～



立ってられない。屋外での行動は危険です。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- テレビ・ラジオなどの気象情報に注意する。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるように準備をする。

つねに気象情報には、注意しましょう！



竜巻から身を守る

竜巻とはこのような現象です

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです。
- ろうと状や柱状の雲を伴っています。
- 台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生します。
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします。被害は、長さ数km、幅数十～数百mの狭い範囲に集中します。
- 移動スピードが非常に速い場合があります。過去に発生した竜巻の中には、時速約90km(秒速25m)で移動したものもあります。

竜巻の発生時に、よく現れる特徴

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

速やかに情報を把握するために

- テレビやラジオの気象情報や町からの防災ラジオなどで提供される防災情報に注意してください！



アンダーパス等冠水危険箇所に注意！

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます(普通車の場合、約30cmの浸水で走行が困難)。アンダーパスのある場所では、無理せずに迂回しましょう。また、避難するために歩行者用地下道を通る際は、冠水していないか十分に注意しましょう。